アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 事業概要

【事業名】（日本語）	第5回 SEE Forum—世界再生可能エネルギー会議 2009
（英語）	5th SEE Forum - World Renewable Energy Congress 2009
【提案者氏名、役職、機関・部署名】（日本語）	大垣英明、教授、京都大学エネルギー理工学研究所
（英語）	Hideaki Ohgaki, Professor, Institute of Advanced Energy, Kyoto University
【事業形態】*	（１）国際集会の開催（国際会議、シンポジウム、ワークショップ等） （２）研究者派遣・受入れ
【実施期間】**	2009年5月17日～2009年5月22日　（6日・ヶ月間）
【実施場所】**	Pullman Bangkok King-power and BITEC, Bangkok, Thailand
【参加国・地域】**	ASEAN10カ国、日本、中国、韓国、インド、欧米　等　20ヶ国・地域

【事業概要】

京都大学はタイ国エネルギー環境合同大学院大学（JGSEE）、アセアン大学ネットワーク（AUN）との共催で、2009年5月17日（日）から22日（金）の6日間にわたって第5回持続可能なエネルギーと環境フォーラム（Sustainable Energy and Environment Forum; 略称 SEE Forum）とWorld Renewable Energy Congress 2009-Asiaを連動してタイ、バンコクにて開催する。5月17日－18日はSEE Forum活動における枠組みを議論する場とし、19日－21日は個別の研究に関する情報交換を行うテクニカルセッションを企画する。

本取組は各国の研究者が自由に参加し情報交換を実施できるSEE Forumの枠組みを整備し、エネルギー・環境技術に関する各分野のNOE(ネットワーク・オブ・エクセレンス)を形成することで共同研究協力を推進するツール構築を目的としている。更に、京都大学が主導でアジア発の大学・研究機関を中心とした国際組織であるNECSE(New Energy Consortium for Sustainable Environment)を整備し、組織的にエネルギー・環境分野に特化した人材育成を実施し、アジアエネルギー・環境教育研究拠点の形成を目指している。

今回の交流事業では特にNOE構築を実現するために、各国で優先度が高いテーマ（太陽エネルギー、バイオエネルギー、クリーンコール技術、エネルギー政策研究、小水力発電研究等）に分けたグループ会合を企画し、各国・機関の研究者が一堂に会する場を提供する。各テーブルには、日本を中心にコーディネーターとなる研究者を置き、参加者間の情報交換を促進し、可能な共同研究につき議論する。さらに、各国のファンディング制度や我が国のODA活用プログラムとも呼応した研究提案を加速するために、同グループ会合には、ファンディング機関特設テーブルを設け、研究者との情報交換、相互理解を促進させる。それと並行して、NECSEコンセプト、メンバーシップ規約等につき関係者間で刷り合わせを実施し、本年8月のNECSE設立に向けた準備を行う。

本事業推進により、我が国のエネルギー環境政策と技術および地域の現状を理解した各国のエネルギー技術者を組織的に輩出することが可能となる。また、アジア地域等の現状を把握し、かつ各国の問題に精通する現地担当者との強い人的ネットワークを持ったエネルギー技術者を育成することができ、我が国の科学技術・環境外交の推進に寄与するネットワークを形成することが可能である。最終的には、SEE Forum とNECSEをベースとしたエネルギー・環境教育研究拠点としてINESE(Institute of New Energy for Sustainable Environment) を設立しCO2削減に貢献する人材育成を推進する。